

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年1月 日

協議会名: 中井町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
神奈川中央交通西株式会社	<p>運行系統名: 中井町オンデマンドバス (通称:中井ふれあいバス)</p> <p>運行区域: 中井町内全域(乗降ポイント119箇所)及び一部町外(乗降ポイント1箇所)を対象としたデマンド型交通システム(区域運行型)</p>	<p>公共交通空白地域の解消だけでなく、町全体の魅力を高める移動手段として、平成25年1月10日から運行している中井町オンデマンドバスについて、大規模な見直しを実施しない代わりに、より必要とする利用者のための運行体制の見直し・改善(運行エリアや乗降ポイント、予約方法等)を図るため、地域の利用状況を深掘りして分析し、需要予測から持続可能な地域公共交通システムを探る期間とする計画となっている。</p>	<p>A</p> <p>平成30年度より町内完結型運行に切り替え、予約の取りづらさも概ね解消された。また、当日予約もほぼ安定して利用できている状況にある。なお、R2年度より利用者ニーズを踏まえ、運行内容の一部を見直し、町内移動に支障が生じない範囲で町外の拠点病院への実証運行を開始した。引き続き、利用者の属性や利用目的、利用状況等を分析し、実態に合わせた運行体制の構築の検討を行っており、計画通り事業は適切に実施された。</p>	<p>B</p> <p>令和2年度(令和2年9月末現在) 利用者数:33.6人/日</p> <p>町内完結型運行に切り替え以降、一部町外の拠点病院への運行を開始し半年が経過した。当初目標としている42人/日以上は下回ったものの、当日予約の取りづらさも概ね解消され、交通空白地域の人や高齢者、児童生徒など本来救うべき移動手段の無い人等が利用しやすい環境が保たれているものと思われる。登録者数も微増ではあるものの増えており、路線バスを補完する移動手段としては一定程度の利用が維持されている。</p>	<p>現行の運行体制で、交通空白地域の方や交通弱者等が利用しやすい環境が一定程度維持されている。しかし、今後、ますます高齢化の進展が予測される中、高齢者の移動手段の確保に向けた環境整備が求められるとともに、運転者不足の深刻化等により、公共交通の維持が容易でなくなってくることも予想される。路線バスを補完するフィーダー的役割を担っているオンデマンドバスも車両の耐用年数や、費用対効果等の課題を含め、新たな運行体制へ見直しを図っていく段階にきている。障害や年齢などに関係なく、誰もが安心・快適に移動できるしくみを検討し、町の交通網全体を機能的なものにしていくことを目指す。</p>

【各評価項目の評価基準】

④事業実施の適切性

- A…事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。
- B…事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった。
- C…事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった。

⑤目標・効果達成状況

- A…事業が計画に位置づけられた目標を達成した(する見込み)。
- B…事業が計画に位置づけられた目標を達成できていない点があった(一部達成できない見込み)。
- C…事業が計画に位置づけられた目標を達成できなかった(達成できない見込み)。